

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目及び専門教育科目を所定の履修方法に従って128単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（建築学）の学位を授与します。</p>		<p>本学科は、5年以上の建築教育を要求するUNESCO-UIA建築教育憲章に対応するため、大学院建築学専攻修士課程と連続し、スタジオ教育を中心とした6年一貫の教育課程を編成します。このうち学士課程においては、学科のディプロマ・ポリシー（学習・教育到達目標）を卒業時に達成できるよう、共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目からなり、128単位を卒業要件とする教育課程を編成します。これにより、一級建築士受験資格の学歴要件と、JABEE（日本技術者教育認定機構）が定めるエンジニアリング系学士課程の認定基準を、卒業時に満たす教育課程となります。</p>	<p>本学科は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p>	
A. 高い知性	<p>高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築的事象を理解するための高度な「知識」を修得し、さらに修得した「知識」を応用して問題を解決する基礎的能力を培っている。</p>	<p>共通教育科目は、人文科学、社会科学等の教養を学ぶ科目として位置付けます。</p> <p>基礎教育科目は、初期演習と、建築を学ぶ上で基礎となる語学、数学及び物理を学ぶ科目によって構成します。</p> <p>専門教育科目は、演習科目、理論科目、フィールドワーク科目によって構成します。</p> <p>演習科目は、UNESCO-UIA建築教育憲章が定める一対一の対話型演習に相当するスタジオ型の建築設計教育であり、カリキュラムの中核をなします。修士課程のインターンシップ科目、演習科目とあわせ、6年間を通して全授業時間の半分以上を占めます。また4年後期には、卒業研究（卒業設計、卒業論文）に取り組みます。</p> <p>理論科目は、建築学の幅広い専門知識を学ぶ講義、実験、実習科目からなり、一級建築士受験資格の学歴要件に定められている建築学の全分野を網羅します。</p> <p>フィールドワーク科目は、演習科目及び理論科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、実践的な力を養う学外実習です。</p> <p>演習科目においては教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、理論科目においては講義、小テスト、実験・実習、レポート、フィールドワーク科目においては建築物や町並み、工事現場の見学、教員の説明、講演会への参加、レポートといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、卒業年次に提出する卒業設計、卒業論文、及びその発表をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>建築の三大要素である、「強」「用」「美」の視点から、またさらに広い「真」「善」「美」の視点から、建築や都市空間を総合的に理解するとともに、これら「真」「善」「美」を総合し真に人間的な住環境を創生する基礎的知識や能力を習得する上で必要な、高等学校卒業レベルの基礎学力を有し、かつグローバル社会に貢献できる国際的通用性を備えた建築設計技術者を目指そうとする者を受け入れます。具体的には入学前に、数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、及び数学Bのうち数列、ベクトル）、物理（物理基礎、物理）だけでなく、国語、英語、地理歴史、公民等の科目も幅広く学習していることが求められます。</p>	
	A-1			<p>語学や諸学の基礎学力の修得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培っている。</p>
	A-2			<p>構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって空間的に構成する基礎的能力を培っている。</p>
	A-3			<p>機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって最適な空間を構成する基礎的能力を培っている。</p>
A-4	<p>コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらのもとで、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培っている。</p>			
B. 善美な情操	<p>「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美」的、「歴史」的、「文化」的価値を理解し、グローバルな視点から地域の伝統的文化を創生できる基礎的能力を培っている。</p>	<p>演習科目においては教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、理論科目においては講義、小テスト、実験・実習、レポート、フィールドワーク科目においては建築物や町並み、工事現場の見学、教員の説明、講演会への参加、レポートといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、卒業年次に提出する卒業設計、卒業論文、及びその発表をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>		
	B-1			<p>基礎的造形能力を培っている。</p>
B-2	<p>歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する基礎的知識を修得し価値観を培っている。</p>			
C. 高雅な徳性	<p>地球環境・国家・地域社会において真に人間的な住環境を創生するために、社会的義務と責任を重んじ、グローバルな視点を持って自律的に行動する「人格」を理解している。</p>			
	C			<p>社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、自律的活動ができる職人としての素養を理解している。</p>
D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	<p>「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培っている。</p>			
	D-1			<p>「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的に実現する基礎的能力を培っている。</p>
D-2	<p>様々な専門家、技術者との共同の重要性を理解している。</p>			